



棚田

序 文

この報告書は、南九州西回り自動車道川内隈之城道路建設に伴って、平成 19 年度～21 年度にかけて実施した薩摩川内市高江町・宮里町に所在する川骨遺跡・西之城遺跡・川幡遺跡の発掘調査の記録です。

川骨遺跡は、弥生時代後期後半から古墳時代初頭、中世後半から近世にかけての遺跡です。弥生時代後期後半～古墳時代初頭については、河川にかかる祭祀を行った場所（土器集中遺構 13 か所）が検出され、壺や器台が出土しました。中世後半から近世については、掘立柱建物跡などの遺構とともに陶磁器類が出土し、この地域に住む人々の生活の様相を窺い知るうえで貴重な資料です。

渋谷一族と島津氏が攻防を繰り広げた際に築城されたとされる山城の縁辺部にあたる西之城遺跡からは、中世から近世にかけての人々の生活の跡が見つかりました。

川幡遺跡は、蔵骨器が出土しました。また近世においては山の斜面を棚田として開墾し、その境に石垣が築かれています。当時の技術を知るうえで貴重な資料であるため、今回の発掘調査では記録作業を行いました。

本報告書が、県民の皆様をはじめとする多くの方々に活用され、埋蔵文化財に対する关心と御理解をいただくとともに、文化財の普及・啓発の一助となれば幸いです。

最後に、調査にあたりご協力いただいた国土交通省九州地方整備局鹿児島国道事務所、薩摩川内市教育委員会、関係各機関及び発掘調査に従事された地域の方々に厚くお礼申し上げます。

平成 23 年 3 月

鹿児島県立埋蔵文化財センター
所長 山下吉美

報告書抄録



例　　言

- 1 本報告書は、南九州西回り自動車道川内隈之城道路建設に伴う川骨遺跡・西之城遺跡・川轔遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本遺跡は、鹿児島県薩摩川内市高江町 2201 番地ほか（川骨遺跡）、2602 番地ほか（西之城遺跡）、宮里町 1825 番地ほか（川轔遺跡）に所在する。
- 3 発掘調査及び報告書作成は、国土交通省九州地方整備局鹿児島国道事務所から鹿児島県教育委員会が受託し、鹿児島県立埋蔵文化財センターが担当した。
- 4 発掘調査は、平成 19 年度から平成 21 年度にかけて実施し、整理作業報告書作成は、平成 22 年度に鹿児島県立埋蔵文化財センターで実施した。
- 5 揭載遺物番号は遺跡ごとの通し番号であり、本文、挿図、表、写真図版の番号は一致する。
- 6 挿図の縮尺は各図面に示した。
- 7 本書中の標高は建設省九州地方建設局鹿児島国道事務所が提供した工事計画図面にある国土座標の Z 座標値を基準とした。
- 8 発掘調査における遺構実測図の作成及び写真撮影は、各年度の調査担当者が行った。また、空中写真の撮影は（有）ジバンク・サーベイに、一部の遺構実測については（株）埋蔵文化財サポートシステムに委託した。
- 9 遺構図のトレースは、整理作業員の協力を得て、平成 22 年度の担当職員が行った。
- 10 出土遺物の実測、トレースは、整理作業員の協力を得て、平成 22 年度の担当職員が行った。
- 11 出土遺物の写真撮影は、本センター職員が行った。
- 12 本報告に係る自然科学分析については、放射性炭素年代測定・種実同定を（株）加速器分析研究所、木材の樹種同定をパリノ・サーヴェイ（株）、植物珪酸体分析・花粉分析を（株）古環境研究所に依頼し、その結果を第 3 章の第 5 節に掲載した。
- 13 執筆分担は以下の通りである。

第 1・2 章 福薗美由紀	第 3 章 関明恵・福薗美由紀	第 4 章 鶴田靜彦・関明恵
第 5 章 関明恵・抜水茂樹		
- 14 本報告遺跡に係る出土遺物及び実測図・写真等の記録は、鹿児島県立埋蔵文化財センターで保管し、展示等に活用するほか、研究者等にも公開する。なお、遺跡出土遺物の注記略号はそれぞれ「カワボネ」（川骨遺跡）「N J」（西之城遺跡）「カワバタ」（川轔遺跡）である。

凡　例

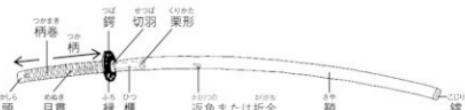
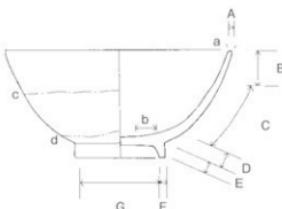
- 1 基準方位は磁北であり、レベルは海拔絶対高である。
- 2 使用した土色は『新版標準土色帖 2004年版』(農林水産省農林水産技術会議事務局監修)に基づく。ただし、陶器器の胎土の色調や釉調については、『標準土色帖』を基準としながら、一般的な色調感も加味して表現した。
- 3 遺構・遺物実測図の縮尺は、挿図中に記した。
- 4 本書で用いるが状遺構の表現については、次のとおりである。

 炭化物

- 6 本書の土器・土師器観察表における「胎土」の項目については、肉眼観察を行い、特に多く含まれる鉱物に「○」をつけた。その他については詳細を備考に記した。
- 7 本書で用いる近世以降の陶磁器についての基本的な名称、及び表現方法は以下のとおりである。

- 【名称】 A 口唇部
B 口縁部
C 体部
D 腹部
E 高台脇
F 叠付
G 高台内面

- 5 本書で用いる土器の表現は、次の通りである。
- 【表現】 a 口唇部、疊付の釉剥ぎ位置
b 見込み蛇ノ目釉剥ぎ部
c 一次施釉ライン
d 二次施釉ライン



目 次

卷頭カラー

序文

報告書抄録

例言

凡例

目次

第1章 発掘調査の経過	第4章 西之城遺跡の調査
第1節 調査に至るまでの経緯.....1	第1節 調査経過（日誌抄）.....225
第2節 事前調査.....1	第2節 発掘調査の方法と成果.....225
第3節 本調査.....3	第3節 層序.....228
第4節 川内隈之城道路建設関係	第4節 調査の成果.....228
遺跡の概要.....5	第5節 総括.....234
第5節 整理・報告書作成作業.....8	
第2章 遺跡の位置と環境	第5章 川越遺跡の調査
第1節 地理的環境.....10	第1節 調査経過（日誌抄）.....235
第2節 歴史的環境.....11	第2節 発掘調査の方法と成果.....235
第3節 周辺遺跡.....11	第3節 層序.....239
第3章 川骨遺跡の調査	第4節 調査の成果.....239
第1節 調査経過（日誌抄）.....17	第5節 総括.....244
第2節 発掘調査の方法と成果.....19	
第3節 層序.....23	
第4節 調査の成果.....28	
第5節 自然科学分析.....185	
第6節 総括.....215	
	写真図版

挿 図 目 次

第 1 図 薩摩川内都 IC ~ 高江 IC 間 遺跡位置図	7	第 2 図 周辺地質図	10
川骨遺跡			
第 4 図 川骨遺跡周辺地形図および 地点区分図	20	第 35 図 土器集中遺構 5 内出土遺物 11	50
第 5 図 川骨遺跡路線図	21	第 36 図 土器集中遺構 5 内出土遺物 12	51
第 6 図 川骨遺跡遺構配置図	22	第 37 図 土器集中遺構 5 内出土遺物 13	52
第 7 図 川骨遺跡基本土層図	23	第 38 図 土器集中遺構 5 内出土遺物 14	53
第 8 図 1 地点土層断面図	24	第 39 図 土器集中遺構 5 内出土遺物 15	54
第 9 図 2 地点土層断面図	25	第 40 図 土器集中遺構 5 内出土遺物 16	55
第 10 図 3 地点土層断面図	26	第 41 図 土器集中遺構 5 内出土遺物 17	56
第 11 図 4 地点土層断面図	27	第 42 図 土器集中遺構 6 ドット図	57
第 12 図 弥生~古墳時代遺構配置図	28	第 43 図 土器集中遺構 6 内出土遺物	58
第 13 図 土器集中遺構 1 出土状況	29	第 44 図 土器集中遺構 7 ドット図	59
第 14 図 土器集中遺構 1 内出土遺物	30	第 45 図 土器集中遺構 7 内出土遺物 1	60
第 15 図 土器集中遺構 2 ドット図	31	第 46 図 土器集中遺構 7 内出土遺物 2	61
第 16 図 土器集中遺構 2 内出土遺物	32	第 47 国 土器集中遺構 8 ドット図	62
第 17 国 土器集中遺構 3 出土状況	33	第 48 国 土器集中遺構 8 内出土遺物	63
第 18 国 土器集中遺構 3 内出土遺物	33	第 49 国 土器集中遺構 9 ドット図	64
第 19 国 土器集中遺構 4 出土状況	34	第 50 国 土器集中遺構 9 内出土遺物	65
第 20 国 土器集中遺構 4 内出土遺物 1	35	第 51 国 土器集中遺構 10 ドット図	66
第 21 国 土器集中遺構 4 内出土遺物 2	36	第 52 国 土器集中遺構 10 内出土遺物	66
第 22 国 土器集中遺構 5 出土状況 1	37	第 53 国 土器集中遺構 11 ドット図	67
第 23 国 土器集中遺構 5 出土状況 2	38	第 54 国 土器集中遺構 11 内出土遺物	67
第 24 国 土器集中遺構 5 ドット図	39	第 55 国 土器集中遺構 12 ドット図	68
第 25 国 土器集中遺構 5 内出土遺物 1	40	第 56 国 土器集中遺構 12 内出土遺物	68
第 26 国 土器集中遺構 5 内出土遺物 2	41	第 57 国 土器集中遺構 13 ドット図	69
第 27 国 土器集中遺構 5 内出土遺物 3	42	第 58 国 土器集中遺構 13 内出土遺物	69
第 28 国 土器集中遺構 5 内出土遺物 4	43	第 59 国 中世~近世遺構配置図	76
第 29 国 土器集中遺構 5 内出土遺物 5	44	第 60 国 井戸跡および出土遺物	78
第 30 国 土器集中遺構 5 内出土遺物 6	45	第 61 国 掘立柱建物跡 1	79
第 31 国 土器集中遺構 5 内出土遺物 7	46	第 62 国 掘立柱建物跡 2	80
第 32 国 土器集中遺構 5 内出土遺物 8	47	第 63 国 掘立柱建物跡 3	81
第 33 国 土器集中遺構 5 内出土遺物 9	48	第 64 国 掘立柱建物跡 4	83
第 34 国 土器集中遺構 5 内出土遺物 10	49	第 65 国 掘立柱建物跡 5-1	84
		第 66 国 掘立柱建物跡 5-2	85

第 67 図 挖立柱建物跡 6	86	第 104 図 中世～近世の出土遺物 4 国内産磁器	…126
第 68 図 挖立柱建物跡 7	87	第 105 図 中世～近世の出土遺物 5 国内産磁器	…127
第 69 図 挖立柱建物跡 8	88	第 106 図 中世～近世の出土遺物 6 国内産磁器	…128
第 70 図 挖立柱建物跡 9	89	第 107 図 中世～近世の出土遺物 7 国内産磁器	…129
第 71 図 挖立柱建物跡 10	90	第 108 図 中世～近世の出土遺物 8 国内産磁器	…130
第 72 図 挖立柱建物跡 11	91	第 109 図 中世～近世の出土遺物 9 国内産磁器	…131
第 73 図 挖立柱建物跡 12-1	92	第 110 図 中世～近世の出土遺物 10 国内産磁器	…132
第 74 図 挖立柱建物跡 12-2	93	第 111 図 中世～近世の出土遺物 11 国内産磁器	…133
第 75 図 挖立柱建物跡 13	94	第 112 図 中世～近世の出土遺物 12 国内産磁器	…134
第 76 図 挖立柱建物跡 14	95	第 113 図 中世～近世の出土遺物 13 国内産磁器	…135
第 77 図 挖立柱建物跡内出土遺物	96	第 114 図 中世～近世の出土遺物 14 国内産陶器	…137
第 78 図 横列状遺構	97	第 115 国 中世～近世の出土遺物 15 国内産陶器	…138
第 79 国 布基礎 1	98	第 116 国 中世～近世の出土遺物 16 国内産陶器	…139
第 80 国 布基礎 2	99	第 117 国 中世～近世の出土遺物 17 国内産陶器	…140
第 81 国 石組み・根石	100	第 118 国 中世～近世の出土遺物 18 国内産陶器	…141
第 82 国 石垣内出土遺物 1	101	第 119 国 中世～近世の出土遺物 19 国内産陶器	…142
第 83 国 石垣内出土遺物 2	102	第 120 国 中世～近世の出土遺物 20 国内産陶器	…143
第 84 国 石垣内出土遺物 3	103	第 121 国 中世～近世の出土遺物 21 国内産陶器	…144
第 85 国 石列内出土遺物	104	第 122 国 中世～近世の出土遺物 22 国内産陶器	…145
第 86 国 溝状遺構 1 および出土遺物 1	105-106	第 123 国 中世～近世の出土遺物 23 国内産陶器	…146
第 87 国 溝状遺構 1 内出土遺物 2	107	第 124 国 中世～近世の出土遺物 24 国内産陶器	…147
第 88 国 溝状遺構 2-3	108	第 125 国 中世～近世の出土遺物 25 国内産陶器	…148
第 89 国 溝状遺構 4 および出土遺物	109-110	第 126 国 中世～近世の出土遺物 26 国内産陶器	…149
第 90 国 溝状遺構 5-6-7	111	第 127 国 中世～近世の出土遺物 27 国内産陶器	…150
第 91 国 大型土坑および出土遺物 1	113	第 128 国 中世～近世の出土遺物 28 国内産陶器	…151
第 92 国 大型土坑内出土遺物 2	114	第 129 国 中世～近世の出土遺物 29 国内産陶器	…152
第 93 国 銀治炉 1	115	第 130 国 中世～近世の出土遺物 30 国内産陶器	…153
第 94 国 銀治炉 2	115	第 131 国 中世～近世の出土遺物 31 国内産陶器	…154
第 95 国 銀治炉 3 および出土遺物	116	第 132 国 中世～近世の出土遺物 32 国内産陶器	…155
第 96 国 銀治炉 4	117	第 133 国 中世～近世の出土遺物 33 国内産陶器	…156
第 97 国 銀治炉 5	118	第 134 国 中世～近世の出土遺物 34 国内産陶器	…157
第 98 国 水田遺構位置図	119	第 135 国 中世～近世の出土遺物 35 国内産陶器	…158
第 99 国 水田遺構土層断面図	119	第 136 国 中世～近世の出土遺物 36 その他	…158
第 100 国 武闘状遺構	120	第 137 国 中世～近世の出土遺物 37 その他	…159
第 101 国 中世～近世の出土遺物 1 輸入陶器	122	第 138 国 中世～中・近世の出土遺物 38 その他	…160
第 102 国 中世～近世の出土遺物 2 輸入陶器	123	第 139 国 中世～近世の出土遺物 39 その他	…162
第 103 国 中世～近世の出土遺物 3 国内産磁器	125	第 140 国 近世～近代以降の出土遺物 1 鉄滓ほか	…163

第141図	近世～近代以降の出土遺物2 磁器	164
第142図	近世～近代以降の出土遺物3 磁器	165
第143図	近世～近代以降の出土遺物4 磁器	166
第144図	その他の出土遺物1 石器	168
第145図	その他の出土遺物2 石器	169
第146図	その他の出土遺物3 土器	170
第147図	その他の出土遺物4 瓦	171
第148図	その他の出土遺物 人面墨書き土器	172

西之城遺跡

第1図	西之城遺跡路線図	226
第2図	西之城遺跡周辺地形図 およびグリッド配置図	227
第3図	土層断面図1	229
第4図	土層断面図2	230
第5図	中世～近世の出土遺物1	231
第6図	中世～近世の出土遺物2	232

川幡遺跡

第1図	川幡遺跡路線図	236
第2図	川幡遺跡周辺地形図 およびグリッド配置図	237
第3図	土層断面図	238
第4図	遺物出土状況(古代)	240
第5図	古代の出土遺物	241
第6図	棚田石組み実測図	242
第7図	近代以降の出土遺物	243

写 真 図 版 目 次

- 図版 1 川骨遺跡 遠景・近景 (航空写真)
図版 2 2地点遺構全体 (航空写真)
図版 3 遺構 (航空写真)
図版 4 調査風景
図版 5 作業風景
図版 6 土層断面
図版 7 土器集中遺構 1
図版 8 土器集中遺構 2
図版 9 土器集中遺構 3
図版 10 中世～近世の遺構 1
図版 11 中世～近世の遺構 2
図版 12 中世～近世の遺構 3
図版 13 中世～近世の遺構 4
図版 14 中世～近世の遺構 5
図版 15 中世～近世の遺構 6
図版 16 土器集中遺構内出土土器 1
図版 17 土器集中遺構内出土土器 2
図版 18 土器集中遺構内出土土器 3
図版 19 土器集中遺構内出土土器 4
図版 20 土器集中遺構内出土土器 5
図版 21 土器集中遺構内出土土器 6
図版 22 土器集中遺構内出土土器 7
図版 23 土器集中遺構内出土土器 8
図版 24 土器集中遺構内出土土器 9
図版 25 土器集中遺構内出土土器 10
図版 26 土器集中遺構内出土土器 11
図版 27 中世～近世遺構内出土遺物 1
図版 28 中世～近世遺構内出土遺物 2
図版 29 中世～近世遺構内出土遺物 3
図版 30 中世～近世の出土遺物 1
図版 31 中世～近世の出土遺物 2
図版 32 中世～近世の出土遺物 3
図版 33 中世～近世の出土遺物 4
図版 34 中世～近世の出土遺物 5
図版 35 中世～近世の出土遺物 6
図版 36 中世～近世の出土遺物 7
図版 37 中世～近世の出土遺物 8
図版 38 中世～近世の出土遺物 9
図版 39 中世～近世の出土遺物 10
図版 40 中世～近世の出土遺物 11
図版 41 中世～近世の出土遺物 12
図版 42 中世～近世の出土遺物 13
図版 43 中世～近世の出土遺物 14
図版 44 中世～近世の出土遺物 15
図版 45 中世～近世の出土遺物 16
図版 46 中世～近世の出土遺物 17
図版 47 中世～近世の出土遺物 18
図版 48 中世～近世の出土遺物 19
図版 49 中世～近世の出土遺物 20
図版 50 その他の出土遺物 1
図版 51 その他の出土遺物 2
図版 52 その他の出土遺物 3
図版 53 西之城遺跡土層、遺物出土状況
図版 54 中世～近世の出土遺物 1
図版 55 川轍遺跡土層、遺物出土状況
図版 56 條田、古代の出土遺物（須恵器）

第1章 発掘調査の経過

第1節 調査に至るまでの経緯

国土交通省九州地方整備局鹿児島国道事務所（以下鹿児島国道事務所）は、南九州西回り自動車道川内隈之城道路建設を計画し、事業区内の埋蔵文化財の有無について鹿児島県教育庁文化財課（以下県文化財課）に照会した。この計画に伴い、県文化財課が平成18年6月に計画路線の埋蔵文化財の分布調査を実施したところ、当事業区内には、7か所の遺物散布地及び発掘調査の必要な地点が所在することが判明した。

事業区内の埋蔵文化財の取扱いについては、鹿児島国道事務所・県文化財課・鹿児島県立埋蔵文化財センター（以下県埋文センター）の三者の協議に基づき、鹿児島国道事務所と鹿児島県教育委員会との間で委託契約が結ばれ、埋蔵文化財の保護と事業推進の調整を図るため、事業着手前に発掘調査を実施することになった。

これを受けて、平成19年度から計画的かつ継続的に各遺跡の発掘調査を実施し、埋蔵文化財の記録保存を図ることになった。発掘調査は県埋文センターが実施した。

本書で報告する遺跡は7か所の遺跡のうち、川骨遺跡・西之城遺跡・川幡遺跡の3遺跡である。

第2節 事前調査

1 川骨遺跡

川骨遺跡は、平成19年9月3日～10月26日に実施した事前調査（260m²）、一部本調査（1300m²）の結果、弥生時代後期から古墳時代初頭に相当すると考えられる遺物及び、中世後半から近世にかけての遺構・遺物が確認された。

事前調査における組織は以下のとおりである。

（平成19年度）

事業主体 国土交通省九州地方整備局鹿児島国道工事事務所

調査主体 鹿児島県教育委員会

企画・調整 鹿児島県教育庁文化財課

調査総括 鹿児島県立埋蔵文化財センター 所長 宮原 景信

調査企画 タ 次長 兼 総務課長 平山 章

タ 次長 兼 南の縄文調査室長 新東 見一

タ 調査 第二課長 立神 次郎

タ 主任文化財主事 兼 調査第 牛ノ濱 修

タ 二課 第二調査係長

タ 主任文化財主事 宮田 荣二

調査担当 タ 文化財主事 岩屋 高広

調査事務	鹿児島県立埋蔵文化財センター	文 化 財 主 事	日高 勝博
タ		総 務 係 長	寄井田正秀
タ		主 査	蒲地 俊一

2 西之城遺跡

西之城遺跡は、平成 20 年 12 月 15 日から平成 21 年 2 月 23 日までの期間に、事前調査(600m²)を行った結果、中世から近世にかけての遺物が出土した。

事前調査における組織は以下のとおりである。

〈平成 20 年度〉

事業主体 国土交通省九州地方整備局鹿児島国道工事事務所

調査主体 鹿児島県教育委員会

企画・調整 鹿児島県教育庁文化財課

調査総括	鹿児島県立埋蔵文化財センター 所	長	宮原 景信
調査企画	タ 次長 兼 総務課長	平山 章	
	タ 次長兼南の縄文調査室長	池畠 耕一	
	タ 調査第二課長	彌榮 久志	
	タ 主任文化財主事 兼	富田 逸郎	
	タ 調査第二課第二調査係長		
調査担当	タ 文化財主事	富山 孝一	
	タ 文化財主事	田畠 哲治	
調査事務	タ 総務係長	紙屋 伸一	
	タ 主査	鳥越 寛晴	

3 川幡遺跡

川幡遺跡は、平成 21 年 2 月 12 日から 2 月 24 日にかけて、事前調査(200m²)、一部本調査(300m²)を行った結果、古代の遺物が出土した。

事前調査における組織は以下のとおりである。

〈平成 20 年度〉

事業主体 国土交通省九州地方整備局鹿児島国道工事事務所

調査主体 鹿児島県教育委員会

企画・調整 鹿児島県教育庁文化財課

調査総括	鹿児島県立埋蔵文化財センター 所	長	宮原 景信
調査企画	タ 次長 兼 総務課長	平山 章	
	タ 次長兼南の縄文調査室長	池畠 耕一	

鹿児島県立埋蔵文化財センター	調査第二課長	彌栄 久志
タ	主任文化財主事兼	富田 逸郎
タ	調査第二課第二調査係長	
調査事務	文 化 財 主 事	拔水 茂樹
タ	文 化 財 主 事	羽嶋 敦洋
調査事務	総 務 係 長	紙屋 伸一
タ	主	鳥越 寛晴

第3節 本調査

1 川骨遺跡

川骨遺跡は、事前調査の結果、平成19年度に一部本調査(1300m²)を行い、平成20年5月9日～3月19日の期間に本調査を実施した。その結果、弥生時代～古墳時代、中世～近世にかけての遺物・遺構が出土した。

本調査における組織は以下の通りである。

〈平成20年度〉

事業主体 国土交通省九州地方整備局鹿児島国道工事事務所

調査主体 鹿児島県教育委員会

企画・調整 鹿児島県教育庁文化財課

調査総括	鹿児島県立埋蔵文化財センター	所長	宮原 景信
調査企画	タ	次長兼総務課長	平山 章
	タ	次長兼南の郷文調査室長	池畠 耕一
	タ	調査第二課長	彌栄 久志
	タ	主任文化財主事兼	富田 逸郎
	タ	調査第二課第二調査係長	
	タ	主任文化財主事	宮田 栄二
調査担当	タ	文化財主事	岩屋 高広
	タ	文化財主事	富山 孝一
	タ	文化財主事	羽嶋 敦洋
	タ	文化財調査員	福薗美由紀
調査事務	タ	総務係長	紙屋 伸一
	タ	主査	鳥越 寛晴
調査指導	三重大学	名誉教授	八賀 晋
	鹿児島大学埋蔵文化財調査室	准教授	中村 直子
	ラ・サール学園	教諭	永山 修一

2 西之城遺跡

西之城遺跡は、平成 21 年 2 月 24 日から平成 21 年 3 月 19 日までの期間に、本調査を行い、中世から近世にかけての遺物が確認された。本調査の組織は、事前調査の組織と同じである。

3 川幡遺跡

川幡遺跡は、平成 21 年 11 月 4 日から 11 月 13 日までの期間に本調査を行った結果、古代の包含層が確認された。

本調査における組織は以下のとおりである。

〈平成 21 年度〉

事業主体 国土交通省九州地方整備局鹿児島国道工事事務所

調査主体 鹿児島県教育委員会

企画・調整 鹿児島県教育庁文化財課

調査総括	鹿児島県立埋蔵文化財センター	所長	山下 吉美
調査企画	タ	次長兼総務課長	齋藤 守重
	タ	次長兼南の縄文調査室長	青崎 和恵
	タ	調査第二課長	彌榮 久志
	タ	主任文化財主事兼	富田 逸郎
	タ	調査第二課第二調査係長	
調査担当	タ	文化財主事	拔水 茂樹
	タ	文化財主事	田畠 哲治
	タ	文化財主事	市村 哲二
調査事務	タ	総務係長	紙屋 伸一
	タ	主査	鳥越 寛晴

第4節 川内限之城道路建設に伴う各遺跡の概要

南九州西回り自動車道川内限之城道路建設に伴い、県文化財課が行った埋蔵文化財の分布調査の結果、遺物散布地及び発掘調査の必要なことが判明した地点は以下の7か所である。

- 1 山口遺跡 …… 薩摩川内市都町、標高約 50 m の丘陵地に位置する。旧石器時代の遺物が出土したほか、縄文時代早期の塞ノ神式土器、磨石、石鎌、古墳時代の成川式土器、中世の青磁、白磁が出土した。また古代の柱穴や焼土域が検出された。
- 2 山仁田遺跡 …… 薩摩川内市青山町の平地に位置する。遺跡の標高は約 27 m で、川内川の支流である隈之城川中流域の左岸の微高地上に立地し、河床からの比高差は約 5 ~ 10 m である。縄文時代の岩本式土器、古代の土師器、中世の青磁、白磁、滑石製石鍋、近世の染付、薩摩焼が出土した。
- 3 堀之内遺跡 …… 薩摩川内市青山町、標高約 50 m に所在する。旧石器時代の剥片尖頭器、縄文時代早期から晩期にかけての土器、石匙、石皿、磨石、石鎌が出土した。古墳時代の散石遺構、焼土域も検出され、同時代の成川式土器が出土している。古代の柱穴、溝が検出された。また土師器や須恵器も出土している。中世では、柱穴や青磁、白磁が出土している。
- 4 上新田遺跡 …… 薩摩川内市青山町の平地に所在する。遺跡の標高は約 34 m で、川内川の支流である木場谷川中流域の左岸の傾斜面上に立地する。縄文時代の中原式土器、黒川式土器、磨製石斧、弥生時代の入来式土器、須玖式土器、黒髮式土器、竪穴住居跡、古墳時代の成川式土器、古代の土師器、石垣、掘立柱建物跡が出土した。
- 5 川舎遺跡 …… 薩摩川内市宮里町に所在する。標高約 12 ~ 20 m の丘陵地の北斜面に立地している。土師器や須恵器が出土した。また、近世に棚田や畑として利用されていた時に構築されたと思われる石垣が良好な状態で残っていた。
- 6 西之城遺跡 …… 薩摩川内市高江町に所在する。標高約 6 m の微高地上に立地している。周辺には宅地や水田、畑が広がっている。中近世の土師器や青磁、白磁のほか、石臼が出土した。
- 7 川骨遺跡 …… 薩摩川内市高江町に所在する。標高約 3 ~ 4 m の川内川下流左岸の低地に立地し、遺跡の東側には猫岳があり、周辺には宅地並びに水田や畑が広がっている。弥生時代後期～古墳時代の土器、古代の人面墨書のほか、中近世の遺物が出土した。遺構は、弥生時代後期～古墳時代 13 か所の土器集中、古代・中近世の掘立柱建物跡、近世～近代の鍛冶跡、溝跡、水田遺構などが検出された。

表1 南九州西回り自動車道建設に伴う埋蔵文化財調査遺跡一覧表（川内隈之城道路）

番号	遺跡名	所在地	調査対象面積(m ²)	調査期間	時代	概要
1	山 口	薩摩川内市都町	15,200 (調査中)	H21.11～ 22.3 H22.5～ 23.2	旧石器 縄文 古墳 古代	縄文土器 成川式土器 柱穴、土師器
2	山 仁 田	薩摩川内市青山町	14,100	H21.11～ 22.3 H22.5～ 22.9	縄文 古代 中世 近世	縄文土器 土師器
3	堀 之 内	薩摩川内市青山町	9,700 (調査中)	H21.12～ 22.1 H22.10～ 23.2	旧石器 縄文 古墳 古代	剥片尖頭器、三稜尖頭器 塞ノ神式土器、石鎌、石斧 成川式土器 土師器
4	上 新 田	薩摩川内市青山町	5,800	H21.11～ 21.2 H22.5～ 22.9	縄文 弥生 古代	縄文晚期土器 山ノ口式土器、須玖式土器 土師器 石列
5	川 輜	薩摩川内市宮里町	4,500	H21.2 H21.11	古代 近世	土師器、須恵器 石垣 本報告書
6	西 之 城	薩摩川内市高江町	7,000	H21.2～3	中世～近世	土師器、青磁 本報告書
7	川 骨	薩摩川内市高江町	12,800	H19.9～10 H20.5～ 21.3	弥生～古墳 古代 中世～近世	土器集中、成川式土器 畝間状遺構、人面墨書き土器、土師器、須恵器、瓦 掘立柱建物跡、溝状遺構、鐵冶炉跡、水田遺構、井戸跡、土坑、石垣、青磁、白磁、青花、染付、肥前系陶磁器、薩摩焼、鐵滓、羽口、埴燒、瓦質土器、瓦、砥石 本報告書